

2012年3月

歴史 No. 4

けんぱくものしりシート

すずめもんじるし

うまのかね

雀紋印の馬印



すずめもんじるし うまのかね 雀紋印の馬印

15~16世紀 一戸町一戸城跡出土

岩手県指定有形文化財

原資料 一戸町教育委員会蔵

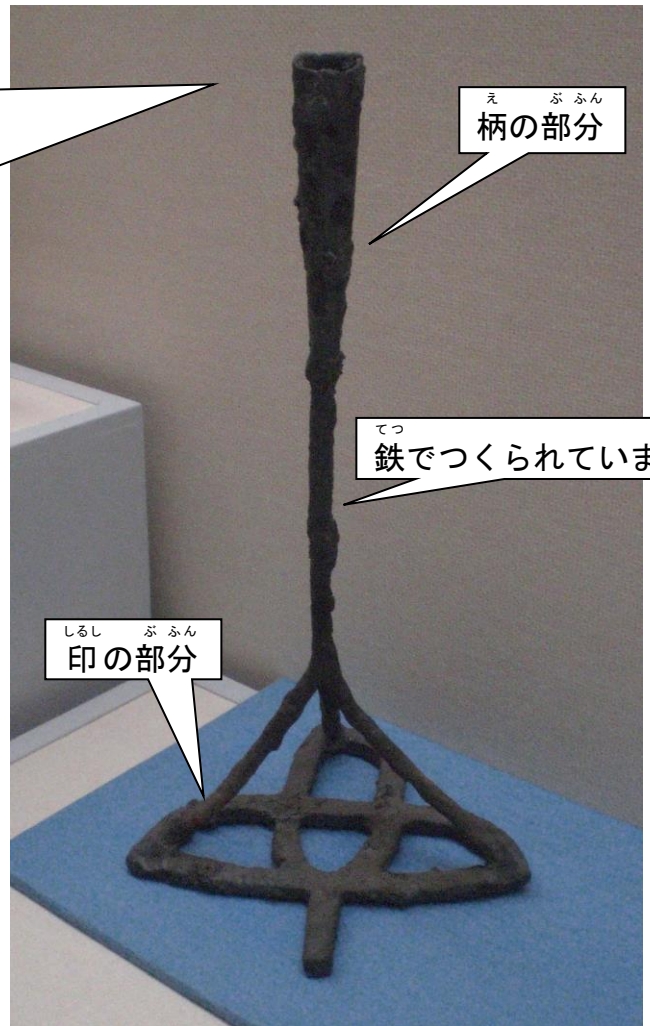
そのむかし、岩手県北部から青森県東部にかけての地域は、糠部郡とよばれていて、広い山野を利用して馬がさかんに飼われていました。

糠部で育てられた馬は、名馬として全国によく知られ、京や鎌倉の貴族や武士など、身分の高い人たちが争って手に入れたといわれています。

写真の『雀紋印の馬印』は、糠部郡

の一部だった岩手県北部、一戸町の一戸城跡から発見されました。これは、名馬の産地に関係が深い、馬に使われたある道具です。いったい、どんなふうに使われていたのでしょうか？

それでは、写真を見てください。『雀紋』というのは、雀をかたどった模様のこと、『馬印』は馬につける焼き印のことです。よく見てみると、小鳥がつばさを広げたような形のもの（印）が、細長い棒（柄）にくっついてありますね。つまり、これは馬に雀型の印を焼き付けるための道具だったのです。



柄の部分

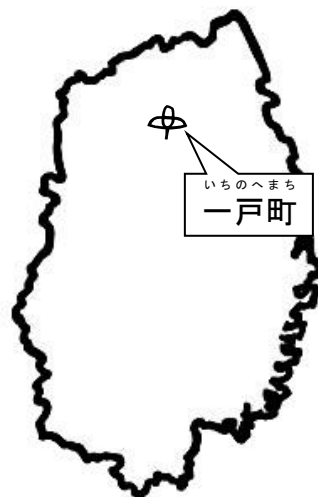
鉄でつくられています

印の部分

むかし、名馬の産地“糠部”には、馬を育てる牧（牧場のこと）がいくつ
 も設けられていました。それぞれの牧では馬に目印となる焼き印をつけてい
 たことが、江戸時代後期にまとめられた書物『古今要覧稿』の「永正五年馬
 焼印図」によって古くから知られていました。この中に、一戸の牧の馬には左
 右両側に雀の印があったことも記されていましたが、
 実際に馬に印をつける焼き印そのものは残っていません
 でした。

ところが、1986（昭和61）年、一戸城跡から、この焼
 き印2点が発見されて、むかしから伝えられていた記録を
 強く裏付けることになりました。

この2点の『雀紋印の馬印』は、糠部の馬印として
 は初めての大きな発見ということで、岩手県の指定文化
 財にもなっているととても大切な考古資料です。



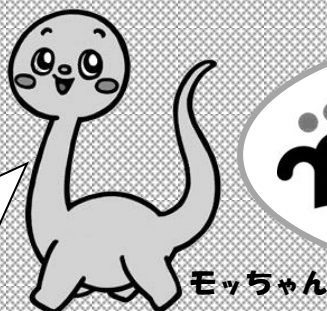
『雀紋』は“一戸産の馬”を証明する大切な印でした



写真は馬印の、印を焼きつける部分です。
 2点とも、たて・よこがだいたい24cmとほぼ同
 じ大きさです。

参考にした本 『北の馬文化』 岩手県立博物館 2000年/御所野縄文公園ホームページ

来月（4月）の
 けんぱくものしりシートは
 民俗-4だよ！
 おたのしみに！



岩手県立博物館

〒020-0102 岩手県盛岡市上田字松屋敷34
 Tel. 019-661-2831 Fax. 019-665-1214
<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>